



行動を起こす一歩を支援する、中高大学生の団体。NPOや学生団体と、意欲のある人をつなぐ役割を果たす。〈インタビュアー〉
りなこ
かの

お話を聞く

能登復興支援

紡ぎ組

二〇二四年一月の地震から一年半が過ぎた能登半島輪島市で、小さな集落の復興をけん引している団体「紡ぎ組」の方にインタビューをしました。

能登の復興の状況は？

復興というより復旧

私たちは、NPO法人紡ぎ組として、輪島市の深見町を拠点に活動しています。復興の状況は町によって全然違います。輪島市はかなり深刻な被害を受けていて、復興というより復旧が終わっていません。道路はガタガタ、山も崩れて、倒壊している家はまだ残っています。公費解体を去年の6月頃から進めています。公費解体を持ち物かわからないなどの条件で、公費解体ができない建物も多く残っています。

災害からの復興とは、何だと思えますか？

小さな復興を続ける

深見町の住民は高齢者が多く、壊れた家を継ぐ人もいないので公費解体を待つ人が多い。町全体で後始末、終活をしている状況です。一方で、深見小学校ではのと復興留学制度で積極的に学生を受け入れていきます。来る人たちは自分の得意分野をいかして、復興のためできることを考える。紡ぎ組としては、仮設住宅で避難生活をおくる住民が深見に帰るきっかけをつくるため、地域イベントを開催しています。また、普段は市街地に暮らす子供たちが、深見の自然豊かな環境で思いっきり遊べる場所もつくっています。こうした小さな復興を積み重ねて、集落を次の世代に受け継ぐ時が来たら、本当の復興と言えると考えています。

気持ちが上向きになる

被災した人の気持ちが上向きになったときに復興だと思います。メディアでは公費解体などの数値が復興の指標になっているけれど、解体されたあとに何もできなければ、復興ではない。仮設住宅や避難所にいたって気持ちが前向きであれば、それは復興。だから私たちは、町の人たちが楽しくなることをやっています。

〈今回お話を聞いたのは・・・〉

坂井さん (副理事長)

輪島市在住歴十年以上。家庭で肉まんを売っている。

式地さん (建築家)

HOME-FORALLの活動をきっかけに深見町へ。のと里山里海染め研究所の活動を通して、交流の機会を創っている。



NPO法人 紡ぎ組(つむぎぐみ)

2014年から輪島市の深見町で地域活性を進めています。現在は旧深見小学校の校舎を拠点に校庭でマルシェを開いたり、住居の整備など力仕事を手伝ったり、深見町の人々の日々の生活を支えています。

校庭と小学校の風景。目の前は真っ青な日本海です。カラフルなテントは、富山大学の芸術文化学部の方が絵を描いています！

被災していない
私たちに、
何ができる？

深見小学校の今後は？

楽しい宿泊施設に

この素敵な風景が広がっている小学校を、宿泊施設にしたいという構想があります。里山・里海の暮らしを体験したり学んだりできるような場所にしていきたいです。

町の人の憩いの場と、命を守るための避難所として残したい。あとは関係人口と呼ばれる人(定住者ではないけれど観光目的以外で地域に関わる人)が気軽に寄れる楽しい場所を目指していて、泊まれて美味しいものが食べられて、バーベキューもできて、露天風呂・楽しく遊ぶ場・キャンプサイトがあって、っていうところを作っています。

震災があったからこそ、生まれたものはありますか？

人とのつながり

これは命が助かったから言えることだけど、私は震災があつてよかったと思うくらいです。大変なことは本当にたくさんあつたけれど、いいことのほうがとってもたくさんあるから。

震災がなければ、若い人がこんなに来てくれることもなかっただろうし、式地さんに会うこともなかった。だから私たちは、悲惨な目に遭ったという考えもないんです。

能登の人々は、被災直後に支援を断つたと報道されました。それはつまりよそ者に対して強いバリアがあつたということ。震災がなかったら深見町は孤立して、外と助け合えないまま限界集落としてなくなっていたかもしれない。

でも被災がきっかけで若い人が集まるようになって、集落の住民も受け入れる準備が出来てきました。今は、そういうタイミングにあるのかもしれない。

現状を知るために私たちが
できることは？

まずは行動してみる

メディアを通してわかることは限られています。ボランティア等で活動してみても初めてわかってくることがあるの、よく考えて何かするということも、まずは思ったことを行動に移す。やらなかったら次にやりたいことは見えない。

テレビとか新聞では事実とは伝わりません。私の本心は伝わりません。実際に来て話を聞いてみるのが一番大事だと思います。

自分ができることに
気がつくためには？

自然体で現地へ

色んなことを体験して、自分の心の感度を高めるのが大切だと思います。頭で考えるより、現地の状況を心身で感じて素直に心に従っていれば、人が本来持っている優しさが発揮されるから。

能登の復興であれば、被災者の人はかわいそうだから助けなければと身構えるのではなく、ここに来て感じた地域の魅力が素直に伝えてくれるだけで力になります。

楽しむ気持ち

自分が本心から楽しいと思うことをやってくれば、それだけでいいです。

今の能登では、失ったものばかりだから、みんな希望が想像できないんです。そこで、外から来た人がここで楽しみを見つけてやり続けてくれれば希望につながります。他の人の役に立とうとすると長続きしない。今は、楽しむ気持ち自体が必要なんです。